

2008 年度

科目名 国語科授業研究	対象学科・学年 文学部日文3回生 教育教福3回生	担当者 土山 和久
授業テーマ 高等学校・中学校における国語科授業の構想 ―現代における国語学習のモデルチェンジ―		
授業の概要と目標 近年の様々な教育改革は、国語科教育にもその本質的な変更を要求しています。本授業では、高等学校あるいは中学校における国語科教育の今日的課題を確認・検討し、授業構想の基本的能力に培うとともに、これからの国語科教育実践の進むべき方向を考究することを目的とします。受講者の積極的な作業参加を通して、国語科授業実践力を鍛錬する場になることも期待します。		
評価方法 出席数を評価の前提とし（本学規定に従う）、課題提出（50％）および期末レポート（50％）から評価する。		
テキスト 特に定めない。授業に必要な資料は、その都度プリントの形で配布する。	著者	出版社
参考書 授業の中で、随時、呈示する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 授業スケジュールの概要は以下の通りです。 前期： 1. 問題設定；国語科教育の今日的課題 ―新「学習指導要領」の解説― 2. 書くことの学習指導 2. 1. 書くことの教育の今日的課題 2. 2. 伝統的な作文教育の批判的考察 2. 3. ワークショップ：“創造的に書くこと” 後期： 3. 読むことの学習指導 3. 1. 読むことの教育の今日的課題 3. 2. 伝統的な文学教育の批判的考察 3. 3. ワークショップ：“行為―生産志向的文学教育” 4. 一年間のまとめ 前後期を通じて基本的にはワークショップ形式で進めます。 前期は学習指導要領の改訂を踏まえながら国語科教育の今日的課題を確認した上で、書くことの学習指導に焦点を絞ります。受講者にも活動に積極的に参加してもらい、書くことの学習指導の要点を体感すると同時に、学習者主体の授業がいかに展開するのか、授業論のレベルでも考究してもらいたい。 後期は読むことの学習指導を中心に取り上げます。従来の読解重視型・主題追求型の授業を超える新しい（文学の）授業スタイル（行為―生産志向的文学教育）を提案し、前期と同じく受講者の試行を通して、その実践的可能性を考察します。 なお、本講義は受講生の参加を重視するため、かなりハードなものとなることが予想されます。作業活動およびレポート作成に積極的に参加できる受講生を強く求めます。また、電子ファイルもしくは電子メールによる課題提出を求めるので、パソコンの基本的使用法には通じておいて下さい。 演習のグループ分け等を行いますので、初回の授業には必ず出席すること（厳守！！）。		